

2024年第1週
2024/1/1～1/7

北区感染症週報

■東京都感染症週報

<https://idsc.tmph.metro.tokyo.lg.jp/weekly/>

■国立感染症研究所感染症週報

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>

全体的に定点当たり報告数が減少していますが、医療機関の年始の休診の影響が考えられます。引き続き、以下の疾患には特に注意が必要です。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・咽頭結膜熱（プール熱）・インフルエンザ・感染性胃腸炎

全数報告対象疾患

- （五類）播種性クリプトコックス症 1件
 - ・（80代女性）感染地及び感染経路は不明
- （五類）梅毒 1件
 - ・（50代男性）病型は早期Ⅰ期、感染地及び感染経路は不明

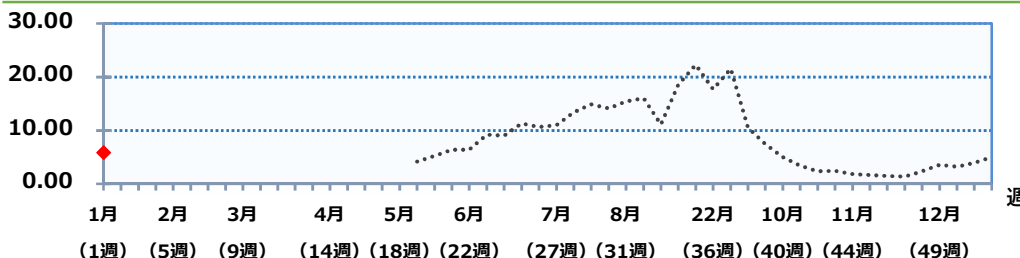
定点把握対象疾患

定点医療機関当たり患者報告数
(定点医療機関からの患者報告数÷定点医療機関数)

..... 2023 北区
—◆— 2024 北区
— 2024 東京都

新型コロナウイルス感染症

	前週 12/25～12/31	【最新】 1/1～1/7	傾向
北区	5.00	5.82	➡
東京都	3.47	3.38	➡



Topics

正しく服用 抗生物質

冬は感染症が流行しやすく、今年度も溶連菌（溶血性連鎖球菌）感染症が流行しました。病院にかかり溶連菌感染症などの診断が出た場合、抗生物質や抗生剤（ここでは抗生物質と記載を統一します）を処方されたことがある方も多いのではないかと思います。しかし、実は**抗生物質の飲み方**には**注意が必要**です。

●抗生物質とは

抗菌薬とも呼ばれるとおり、細菌が原因の感染症（溶連菌や肺炎球菌など）に対して効果があります。一方、ウイルスやカビなどの細菌以外が原因の感染症（大部分の風邪、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ、咽頭結膜熱など）には効果がありません。

●薬剤耐性菌をご存じですか

例えば解熱剤は熱が下がれば基本的には使用をやめてよいものですが、**抗生物質は症状がよくなってきても処方された分は必ず飲みきる必要があります**。自己判断で服用をやめると、体内に残った菌が薬剤耐性菌と呼ばれる薬が効かない細菌になってしまい、感染症が治らなくなってしまう場合があります。

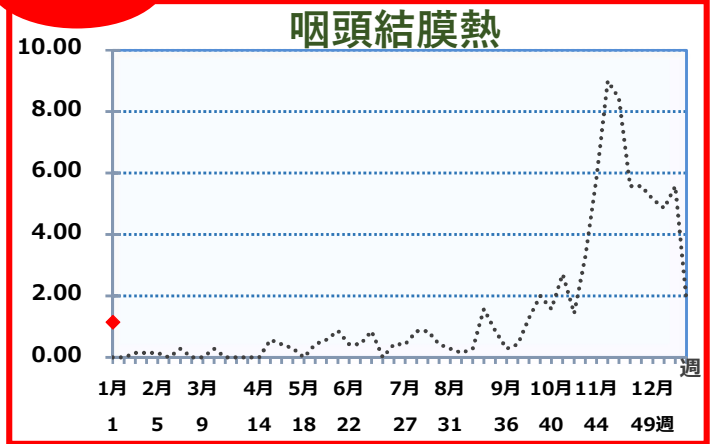
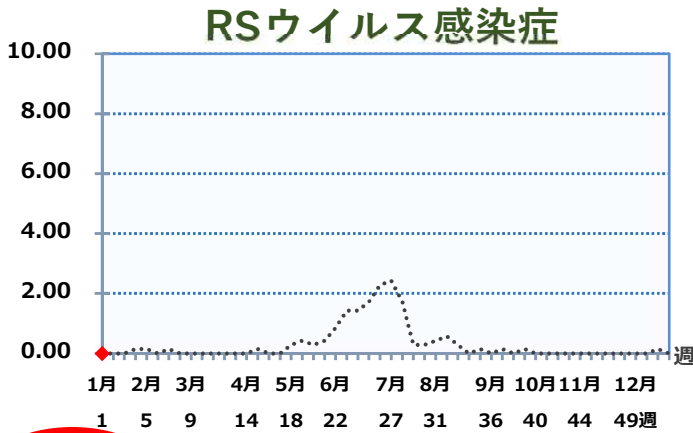
抗生物質を処方されたときは、必ず医師の指示通り正しく薬を飲みましょう。

定点把握対象疾患

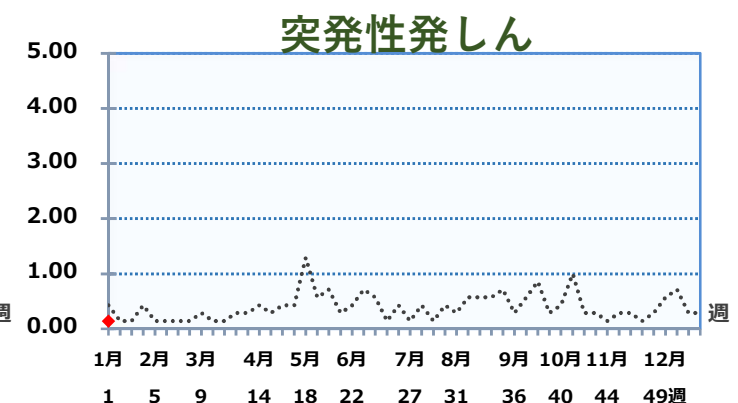
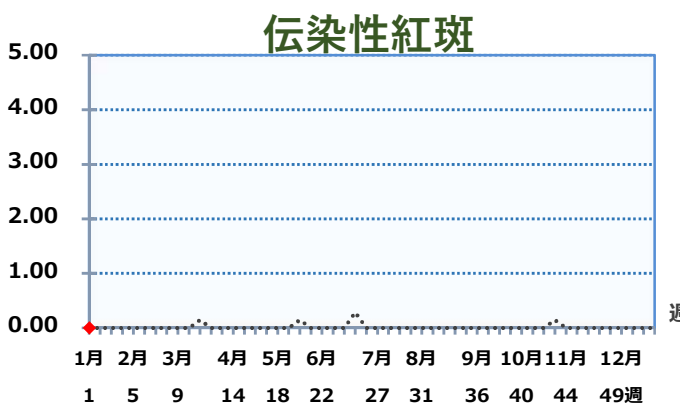
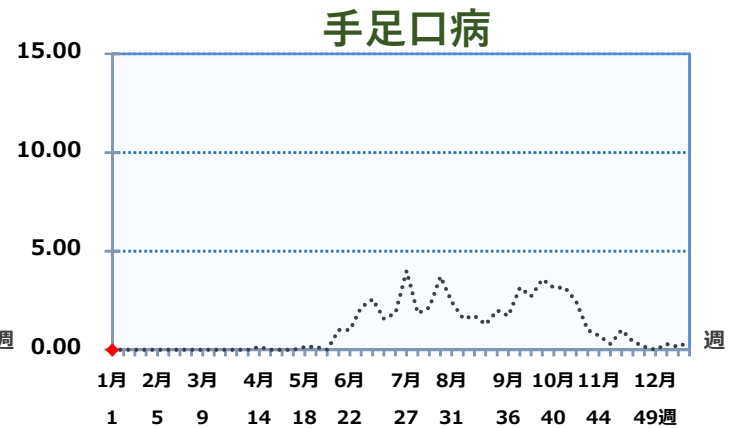
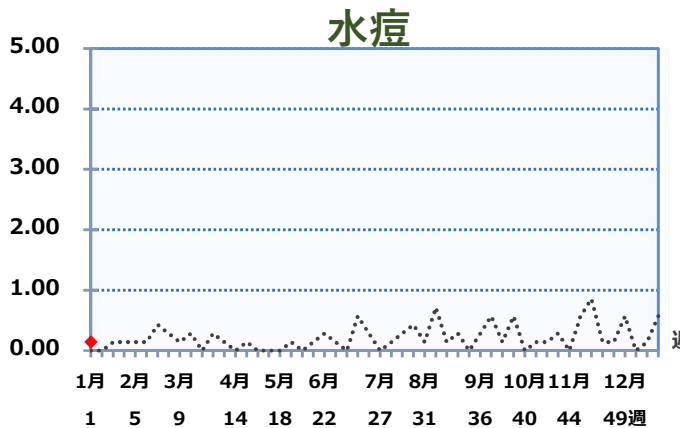
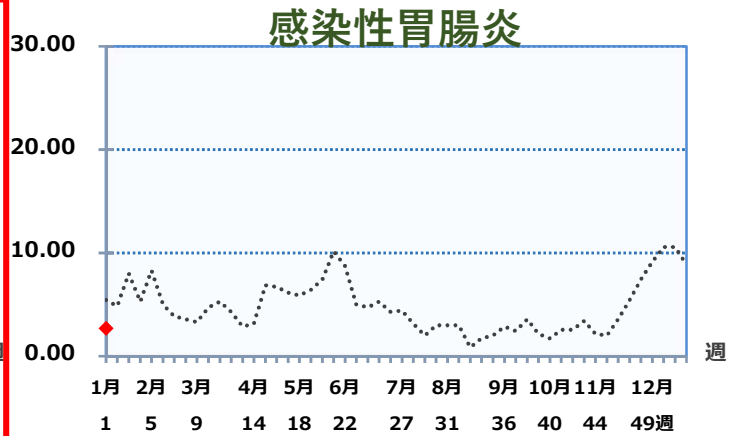
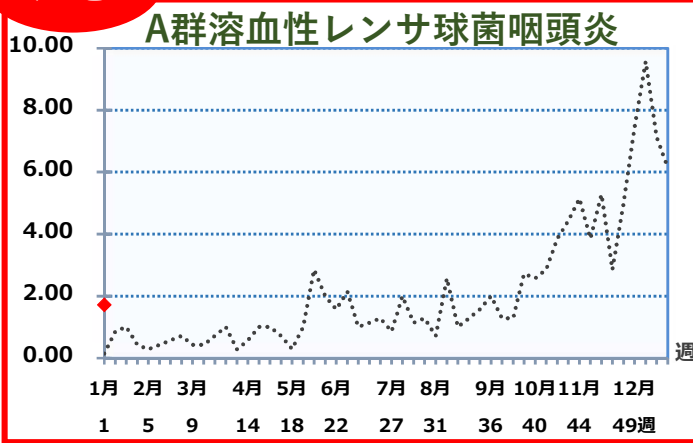
定点医療機関当たり患者報告数
(定点医療機関からの患者報告数÷定点医療機関数)

..... 2023 北区
 ◆ 2024 北区
 — 2024 東京都

注意



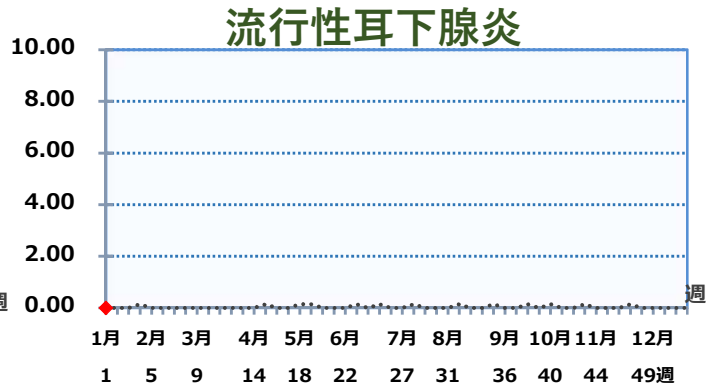
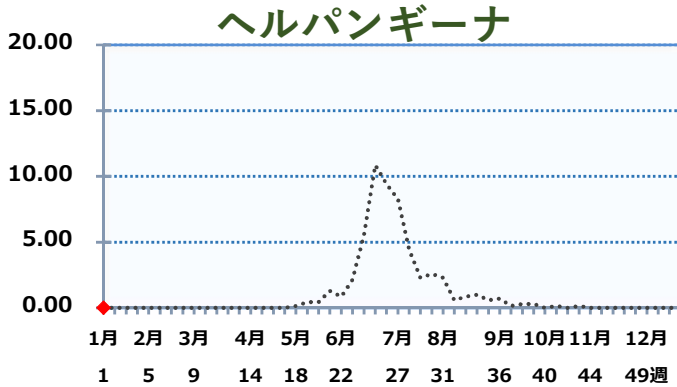
注意



定点把握対象疾患

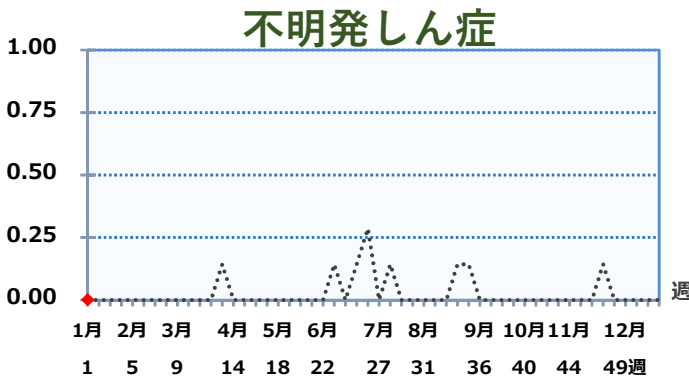
定点医療機関当たり患者報告数
(定点医療機関からの患者報告数÷定点医療機関数)

..... 2023 北区
—◆— 2024 北区
—■— 2024 東京都

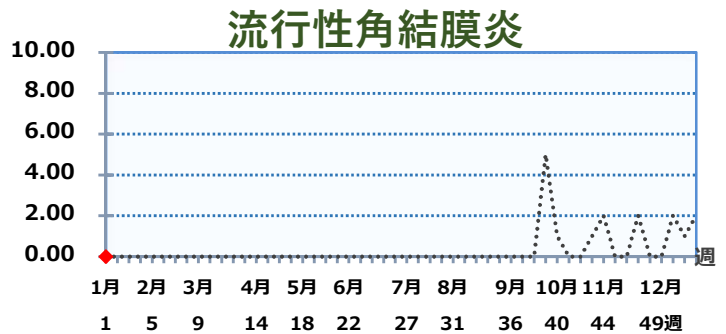
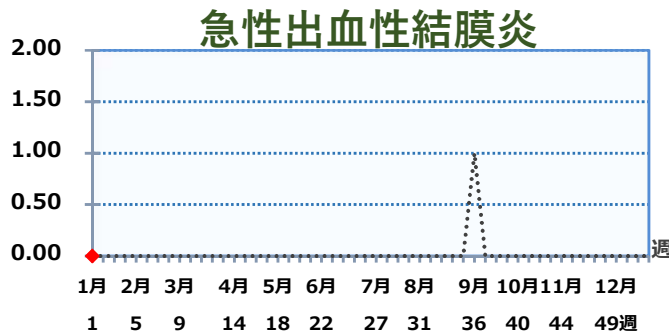
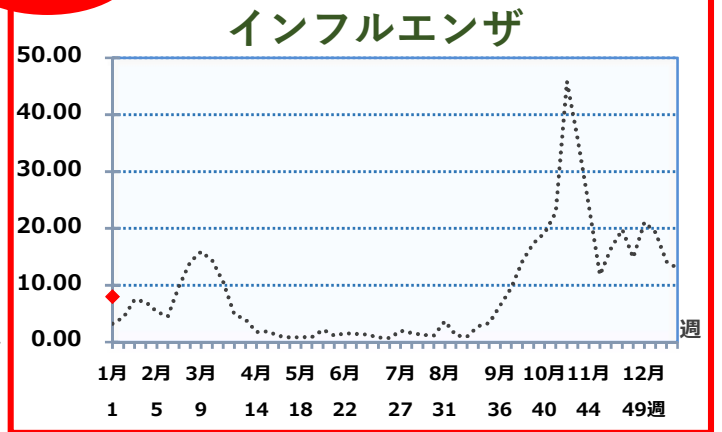


川崎病

北区 : 定点医療機関当たり患者報告数 : 0.00
 東京都 : 定点医療機関当たり患者報告数 : 0.02



注意



性感染症 (2023年11月分まで) ※梅毒は「全数報告対象疾患」に掲載しています。

2023年12月分は2024年第2週号にて掲載予定です。

